

総務常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和元年5月15日（水）～16日（木）

2 視察項目（視察都市）

- ・災害対応及び防災の取り組みについて（岡山県倉敷市）
- ・防災ラジオ整備事業について（岡山県高梁市）
- ・高梁市の魅力を発信する高梁istについて（岡山県高梁市）

3 参加委員

委員長：桂 睦子、副委員長：大村卓司

委員：米川勝利、岩本 守、下野 巖、稲葉通宣

4 調査概要

倉敷市は昨年、未曾有の豪雨災害に見舞われ、中でも真備地区は小田川とその支流8カ所で堤防決壊など約1,200haが3日間水没した。59人の生命が失われ、5,700棟超の住家被害があった。本年3月には、「真備地区復興計画」をまとめ、同地区の災害復旧、小田川合流点の付替事業前倒しや堤防整備、河道の掘削などを体系的に盛り込んだ。視察では、真備地区に案内いただき、被災地域の現状や復興に向けた現場等を見学した。



高梁市の防災ラジオ整備事業は、希望する世帯を対象に、市内5地域の年次計画で防災ラジオを無償貸与する取り組みである。災害時の緊急放送は、各地域局ごとに配信され、昨年の豪雨時には、情報伝達の手段として効力が発揮された。また、高梁istの取り組みは、市の魅力を率先して広く発信し、アシストしてくれる方を登録するという取り組みである。6年目で登録者は700人を超えた。対象は市内外在住者を問わず、オリジナル名刺を用いて無報酬で市をPRしてもらうというもの。

5 委員長所感

倉敷市では、真備地区の現地視察もさせていただき、災害から1年近く経過した中で、災害からの復興には多大な時間を要することが痛感させられた。仮設住宅にトレーラーハウスを採用するなどの取り組みや、災害対応検証報告書も拝見させていただきながら、大阪北部地震により被災した本市における検証に当たっても、大いに参考となる視察となった。

高梁市での防災ラジオ貸与は、災害時の既存伝達手段を補完するために大変有効な手段の一つであった。さらに視覚障がい者の方には文字表示機能付きラジオも貸与されるなど、きめ細かい配慮がなされていた。また、高梁市の魅力発信をお手伝いいただく「高梁ist」の取り組みは、高梁に多くの来訪者を呼び込む効果だけでなく、高梁にかかわる人たちの郷土愛を育む取り組みとしても、非常に有効な手法であると感じた。